

『ドアをあけたら』 作…岩本憲嗣

■あらすじ

新任英語教師の今江知佳。

彼女は前年まで父が務め続けた高校の教壇に今日も立っていた。

父と比較されているのではという見えぬ圧力に耐えながら必死に。

そんな中、思いがけず演劇部部长・大山と埃まみれの倉庫で30年前の演劇台本を探すことになる。大山が必死にそれを探す理由。それは父の伝えたある言葉がきっかけだった。

やがて錆びついた扉の先から出て来た台本。

それを見た知佳は大山に一つの提案を持ちかけるのであった。

■登場人物

今江知佳（いまえちか・女・23歳・新任の英語教師）

田中修治（たなかしゅうじ・男・47歳・演劇部顧問）

大山朝海（おおやまあさみ・女・17歳・演劇部部长）

知佳「（ドアの向うから元気なく）す、少し早いですけど、し、See you next time」

SE…ドアの開閉音。教室の中は忽ち喧騒に包まれる。

知佳「（呼吸を乱しながら）……終わっ……た」

SE…チャイムの音。職員室の喧騒。

田中「大分お疲れですね。まだ慣れませんか」

知佳「あの、私、父と違って向いてな……」

田中「くないですよ。こんなのみんな通る道です。勿論俺も」

知佳「田中先生もですか？」

田中「ウチみたいな私立の進学校だと授業内容に対するプレッシャーっていうんですか、どうしてもありますよね。俺が新任の時なんかは分かりやすいつて評判のトモチヤン先生が現役でしたし」

知佳「え？田中先生って母とも面識が？」

田中「あるどころか師弟関係ですよ。聞いてなかったんですか、ははあん、さては今江先生

嫉妬だな。ははははは」

知佳「私も比べられてますよね。2年生以上は父の授業も知って……」

田中「だから何だってんですか。立派な教員であられたご両親、これは先生の誇りですよ！でも誇りに押し潰されるなんて馬鹿馬鹿しい。その先に新しいものを見つけて、先生なりの魅力を生徒に提示しないと」

知佳「でも私みたいな新米じゃ……」

田中「ならゆつくり探しましょう。ご両親にはお世話になってますから、恩返しいくらでもしますよ。頼って下さい。ははははは」

知佳「すみません」

田中「そういえば今江先生最近如何です？」

知佳「お蔭さまで。ただ、母を亡くした直後に定年も迎えて寂しそうには……」

田中「学校の話したらどうです？ムスつとしながら食いついて来ますよ、ははははは」

SE…職員室のドアが強く開く音

朝海「いた。田中先生、倉庫!!」

田中「大山か。なんだそりや、助詞をつけて話せ助詞を。一応女子だろ」

朝海「……今のギャグのつもりですか？」

田中「分かってるなら笑え。どうしたお前までムスつと……あ！倉庫な。スマン、会議あるの忘れてて、明日に延期で……」

朝海「嫌！もっと演劇部顧問の自覚を……」

田中「まあ確かに引き継いだけだな、でも学年主任としての仕事もだな……」

朝海「仕事と私とどっちを取るんですか!!」

SE…忽ち職員室の喧騒が収まる

田中「馬鹿！お前何言って……(周囲に)い、今の、演劇の練習ですからーははははは」

朝海「田中先生!!」

田中「そうだ、今江先生に付き添って貰え。先生……お願いします！」

知佳「私!?!?!?!ですか?」

SE…古い引き戸の開く音

知佳「(咳き込んで) 凄く埃……」

朝海「通称開かずの倉庫ですから。じゃあ一緒に台本探すの手伝って下さい」

知佳「え?私も?」

朝海「何しに来たんですか？」

知佳「え？あ……分かった、うん」

朝海「30年前のものだから藁半紙にクリップ止めだと思いま……ゲホゲホッ」

知佳「30年？そんな古いの上演するの？」

朝海「今は出来ません」

知佳「え？」

朝海「先輩が引退して、演劇部私と新入生の二人ですから」

知佳「え？ウチの演劇部は強豪だって……」

朝海「それって今江先生が？……ああ、先生じゃなくて、先生のお父さんのことです」

知佳「あ……うん、まあね」

朝海「先生の仰る通りです。去年も都大会出ましたし」

知佳「なのに……その」

朝海「関係ないですよ。芝居やりたくてウチに入学する人なんてそもそもいないし」

知佳「なんか悔しいね。頑張ってるのに」

朝海「悔しいって何がですか」

知佳「だって部員二人じゃ大会にだって……」

朝海「出ますよ。When one door shuts , another open」

知佳「……それ、英語のことわざ？」

朝海「都大会で負けた時に今江先生が教えてくれたんです」

知佳「一つのドアが閉まっている時、もう一つのドアは開いている」

朝海「ドアが閉じたってことは、新しいドアの開くチャンス。私はそう思ってます。でも私
せつかちなんです、ドアが開くの待つなんて無理だから、こうして自分で無理矢理にでも
……先生、ちよつと押さえて下さい。この上の戸棚とか怪しい……えいつ……え？
うわあああ！！」

SE…錆びた戸が開き紙束の落ちる音

知佳「誇りにむせながら」 大山さん？」

朝海「……あった。これですよ！！」

知佳「それより怪我は……」

朝海「今江先生仰ってたんです。ずっと昔、部員が二人だけになった時に、当時の国語教師
に無理を言って二人芝居を書き下ろして貰ったって、間違いなくこれです！」

知佳「……作、中井知子……お母さん？」

朝海「助かりました。有難うござ……先生？」

知佳「これ……観たいかも」

朝海「え？」

知佳「ねえ、これどうすれば上演出来るの」

朝海「え？あとは音響照明のスタッフだとか、それと……（噴き出す）」

知佳「何？なんかおかしいなと言った？」

朝海「いいえ。ただ……先生つてもっと物静かで大人しい人だと思ってたのに……今の顔……凄く必死過ぎて……変」

知佳「え？……何その言い草。折角手伝ってあげようっておもったのに」

朝海「え？」

知佳「駄目？……私も観たいの。それに……」

朝海「ですね。じゃあお願いします。まずは演劇部手伝ってくれる生徒一緒に探してください」

知佳「分かった。……うん、（流暢に元気よく）OK！」

SE：教室のドアが勢いよく開く音

知佳「（元気よく）Good morning everyone! Are you ready? Let's open new door!」

【終】

※ご利用上の注意※

- ・ 本脚本はどなたでも無料にてご利用いただけます。
- ・ ご利用に当たつての改変などに制限は設けておりません。皆様のご都合に応じて自由に改変頂いてかまいません。
- ・ 本脚本をご利用頂く際は必ず作者 (gumbal227@hotmail.com) まで「」一報頂けますようお願い致します。
- ・ 但し、練習での使用などの場合はご連絡の必要はございません。
- ・ 連絡が必要かどうかの基準は以下の通りでございます。

※連絡不要の場合

- ・ 仲間で集まつての練習でのご利用。
- ・ Skypeなどを介しての第三者の聴取・視聴が出来ない形でのご利用。

※連絡が必要となる場合

- ・ ツイキャスやニコ生など第三者の聴取・視聴が可能な状況下でのご利用。
- ・ 連絡を要する形でのご利用の際は、必ず作品名・作者名をどちらかに記載いただけますようお願い致します。

その他ご不明な点ございましたらお気軽に下記までご連絡下さい。

gumbal227@hotmail.com (岩本)